

令和4年度

令和4年1月23日実施

入学試験問題

(看護学科3年課程)

国語総合

◎指示があるまで開いてはいけません

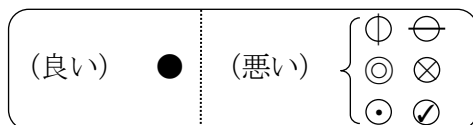
注 意

- 1 解答用紙には、氏名・受験番号・志望校名が印刷されているので、あなたの解答用紙かどうかを確認すること。
なお、氏名欄、志望校名欄には、氏名、志望校名を漢字で正確に記入すること。
- 2 この問題は、表紙を除いて1ページから15ページまでであるので確かめること。
- 3 試験の時間は、9時00分から9時45分までの45分とする。
- 4 解答には、HB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使うこと。
- 5 問題は、5肢択一式により出題されている。解答方法は、次のとおりとする。
 - (1) 5肢択一式問題の正解は、各問題とも1つである。解答用紙の所定のマーク欄に、正解の番号を1つだけマークすること。2つ以上マークされている場合は無得点とする。
 - (2) 解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んでマークすること。

例 〔問1〕日本の首都は次のうちのどれか。

- ① 京都 ② 福岡 ③ 東京 ④ 大阪 ⑤ 神戸

正解は「③ 東京」であるから解答用紙のその問題番号の次にならんでいるマーク欄 ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を鉛筆で ● のようにマークして ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。



(良い) のようにマークする。
(悪い) のようだと機械で読み取れないことがある。

既にマークした解答を消す場合は、プラスチック消しゴムでよく消すこと。

国語総合

一 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

「言葉の力」という題目をかかげた話なら、言葉というものの偉大さをあれこれ強調するにちがひなからう、と思われるかもしれないが、私はむしろ、言葉というもののささやかさを強調したい。一つ一つの言葉はまことに頼りない、ささやかなものだということをいいたい。しかしその、頼りなくささやかなものの集りが、時^(時)あつて驚くべき力を発揮するところに、実は言葉の昔も今も変わらない偉大な力があるのだった。そのことについて考えるために、ごく単純な問題を取り上げてみたい。

世界には、傑作といわれる詩や劇や小説が沢山ある。しかし、これは傑作だからぜひ読んでおきたまえ、と人にいわれたものを読んでみたけれど、ぜんぜん面白くなかったという経験⁽²⁾をすることは少なくない。退屈して投げ出してしまふということはしばしばある。古典的傑作というからには、よほどそこには尋常ならざる智慧^(ちえ)の結晶があり、すばらしい表現があり、それを読めば今まで知らなかった世界がわがものとなり、自分が一段と成長したような実感を味わえるだろう、というようなことを考えながら意気^(い)こんでとびついてみると、これがどうも勝手^(a)がちがって、面白くない。「ア」そこで、とびつくのも早ければ投げ捨てるのも早く、さつさと離れてしまふことになる。そうなるのも無理はないと思われる事情があつて、それはひとつには期待が強すぎるのだ。往々にして人は古典の中に性急に何らかの結晶化した智慧や教訓を求めにゆく傾向があつて、現実にはそんなものは滅多にないから、失望する結果になる。「イ」

それというのも、古典として多くの人々に長い歳月仰がれてきた書物は、決してどぎつく人目を惹くような名文句に満ちているわけではなく、むしろそこで使われている言葉は、あたりまえの言葉が多いのである。「ウ」ふだん使わないような珍らしい言葉をふんだんに使つて書かれた千古不滅の傑作などというものは、まず全くないといつていい。傑作というもののすばらしさは、一語一語とつてみると実に普通の言葉で書かれている点にあるとさえ言えるだろう。「エ」これは傑作だから読んでみなさい、と推賞^(推)されて読んでみたが一向につまらなかつた、というようなことが生じるのも、一見退屈で平凡であることが、古典というものの通性だからである。「オ」そのとき自分の心がそれに対して素直に入っていけないようなときは、そこに書かれていることは全くありふれたこととしか思われない。そういうものが古典というものであるらしい。

私も日本文学の古典、詩歌についていえば『万葉集』とか『古今集』とかを読んできた。『万葉集』の場合には、初めて読んだときでも感興をそえられる歌が少なくなかつたが、『古今集』の場合は、とてもそうはいかなかつた。おしなべて退屈なもの

ではないか、と思った。それには正岡子規の否定論の影響もあったが、それ⁴だけでなく、読んでいきなりこちらに分るものを性急に求めていたため、つまり、てっとりばやく「古今集とは何か」「古今集の本質とは」ということを分らせてくれるものをここに見つけようとしていたため、かえって『古今集』そのものの中に入れていたのだった。そういう期待をもって読んでみると、そこには花だのホトトギスだの涙だの月だのばかりが目について、何とものっぺらぼうな、平凡な世界しかないように思われ、失望してしまうのである。必要なのは、花や月をそのように大事にしていた精神そのものの構造を知ることだが、それは徐々にしか見えてこない。しかしそれが徐々に見えてくると、にわかには『古今集』というものが面白くなってくる。

(大岡^{おおかまこと}信『ことばの力』より)

(注1) 時あって——ここでは、「時にあって」(良い時節に会う、幸運に出会う)という意味で使われている。

(注2) 推賞——ある物や人の優れていることを、他の人に向かって褒めたたえることの意味。ここでは「推奨」の同義語として使われている。

[問1] ^Eそのことについてとあるが、「そのこと」の示す内容として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 一つ一つの言葉はまことに頼りなく、ささやかなものだということ。
- ② 言葉の頼りなさを知りながら、話の題目を「言葉の力」としたこと。
- ③ 言葉というものは今も昔も変わることなく、ただ存在するということ。
- ④ 頼りない言葉であるゆえに、言葉は集まらないと力を発揮できないこと。
- ⑤ 一つ一つは頼りない言葉だが、集まることで時として偉大な力をもつこと。

〔問2〕

ぜんぜん面白くなかったという経験をする⁽²⁾とあるが、その理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 全て普通の言葉で書かれている古典的傑作に対して、自分を成長させるために読み始めてしまうため。
- ② 結晶化した智恵や教訓が含まれる古典的傑作に対して、自分を成長させるために読み始めてしまうため。
- ③ そもそも一見退屈で平凡である古典的傑作に対して、大きな期待を抱き意気込んで読み始めてしまうため。
- ④ 一読しただけで価値が分からない古典的傑作に対して、早く読み進めようと意気込んで読み始めてしまうため。
- ⑤ 一読しただけで価値が分からない古典的傑作に対して、人から勧められるままにすぐに読み始めてしまうため。

〔問3〕

勝手がちがつて、おしなべて^aとあるが、この言葉の意味として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① a 以前の経験や慣れたこととは様子や具合が違い、面くらう。
b 総じて
- ② a 組合せがうまくいかない。物事や意見などがうまく一致しない。
b 非常に
- ③ a 見込みが違う。期待に反する。
b 個人的に
- ④ a すらすらと言葉が続いて出ないで口ごもる。言いかけてためらう。
b 予想どおり
- ⑤ a 救済や解決の見込みがないとして、手を引く。
b 比べると

〔問4〕

次の文を文章中の「ア」～「オ」のいずれかに入れるとき、入る場所として最も適切なものは、次のうちのどれか。

古典を読むためには、むしろことさらに時間が必要だし、その作品の生れ出した時代環境に関する知識も必要で、つまり何度も繰返して徐々に深入りしてゆくほかないのが古典というものなのである。

- ① 「ア」
- ② 「イ」
- ③ 「ウ」
- ④ 「エ」
- ⑤ 「オ」

〔問5〕

往々にしてとあるが、この言葉が直接かかる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 人は古典の中に
- ② 性急に結晶化した何らかの智恵や教訓を
- ③ 求めにゆく傾向があつて
- ④ そんなものは滅多にないから
- ⑤ 失望する結果になる

〔問6〕 それが指示している内容として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 『古今集』を退屈なものだと思った理由として、正岡子規の否定論の影響があったこと。
- ② 『古今集』は面白いものだと思った理由として、読んですぐに分かるものを求めていること。
- ③ 『古今集』を退屈なものだと思った理由として、正岡子規が『万葉集』を評価していたこと。
- ④ 『古今集』の面白さが分からなかった理由として、「古今集の本質」を理解しようとしたこと。
- ⑤ 『万葉集』が優れているものだと思った理由として、読んですぐに分かるものを求めていること。

〔問7〕 この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 古典的傑作の中にある何らかの結晶化した智恵や教訓を求めるといふ姿勢は古典作品の読み方として正しいものとは言えない。
- ② 普通の言葉で書かれている古典は、退屈で平凡に思いながらも、時間をかけて読み、周辺知識を得るうちに、突如、作品の面白さに気付くものである。
- ③ 日本文学の古典の詩歌には、『万葉集』のように、読めばすぐに自分が知らなかった世界が自分のものとなり、自分の成長が実感できるものがある。
- ④ 傑作だから読むようにと勧められた作品を面白くないと感じるのは、自分ではなく他者が選んだもので、その作品に心が入っていないからである。
- ⑤ 古典として多くの人に長年読み継がれてきた書物で、普段使わないような珍しい言葉をふんだんに使用して書かれたものこそ、千古不滅の傑作である。

二 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

ホームページ掲載の許諾が得られましたら、
掲載いたします。

ホームページ掲載の許諾が得られましたら、
掲載いたします。

ホームページ掲載の許諾が得られませんでしたら、
掲載いたします。

ホームページ掲載の許諾が得られませんでしたら、
掲載いたします。

ホームページ掲載の許諾が得られましたら、
掲載いたします。

三 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

アサガオといえば、誰もが朝に咲く姿を思い浮かべることは間違いないだろう。逆にマツヨイグサといえば夜咲くイメージだろう。一年を通して、ほとんどの植物は花の咲く時期が決まっているが、一日の中でもやはりそれぞれの植物で花の咲く時間は決まっている。

このことは古くから経験的に知られていたようで、開花する時間が植物の名前となったものがある。その代表がスイレン科のヒツジグサである。この名前は動物のヒツジに由来するものではなくて、江戸時代に用いられた時刻法で未^ひの刻、現在の時刻に置き換えると午後二時ごろに開花することから名付けられた。このようなことは外国でも認識されていたようで、オシロイバナの英語名は“フォー・オクロック”というが、これはオシロイバナが夕方の四時ごろに咲き始めることから名付けられた。

一日のうちで、開花する時間が植物によってほぼ決まっていることにはすでにリンネも気がついていたようだ。カール・フォン・リンネは一八世紀のスウェーデンの植物学者で、植物はおろか、動物、さらにもとは生物であった化石についてまでも、全世界共通の生物の名前として現在用いられている学名のキノ^aを考案した研究者で、“近代分類学の父”と呼ばれている。

彼は植物の花が一日のうち、いつ咲くかをつぶさに観察し、それを時計として表した。A、リンネが時間のシヒョウ^bとした花は、彼がスウェーデン人であったために、日本ではあまりなじみのない植物がほとんどなのが残念だ。

日本の植物に目をやると、早朝に開花する花の代表といえば、アサガオやカボチャ、ツユクサ、リンドウなどがあげられる。また、夕方から夜にかけては、別名、月見草と呼ばれる一連のマツヨイグサの仲間やオシロイバナ、ヨルガオなどがその代表であろう。

夜咲きの花として知られるもうひとつの代表的な花がゲツカビジン（月下美人）であろう。ゲツカビジンはサボテンの仲間であるが、多くのサボテンとは異なって、乾燥地ではなく、B 熱帯の比較的雨の多い森林に生育している。

この植物の花はおおよそ午後の七時から一〇時ごろに咲き始め、晴れた日だと明け方にはしぼんでしまうが、次の日が曇りや雨だと昼ごろまでもつこともある。空気中の湿気が多いと花卉の細胞が長持ちするのだと思う。満開時には直径一〇から一五センチにもなり、開花するとすばらしい芳香が漂う。真夏の夜の暗闇の中では、その大きな白い花はまさに「月の下の美人」を想像させる。

この花が咲くと毎年、全国のどこかの新聞やテレビがニュースとして扱うが、ふしぎとその開花が日本全国で重なり合うことが多い。この原因については、じつは日本

で栽培されているゲッカビジンの多くは、同じ個体から栄養繁殖^(注1)によって増殖されたクローンであるせいと推定される。すなわち遺傳的にはまったく同一であるため、その開花習性もほとんど同じだということである。

開花習性を決めるのは温度と光である。ゲッカビジンは長日植物であり、また高温の状態が開花に適しているが、夏は高温になるという条件が日本の多くの地域で同じであるため、開花が重なり合うのだと推定される。

C、それぞれの植物が、一日のそれぞれに決まった時間に花を咲かせることができるのはいったいどうしてだろう。じつはその習性は開花ばかりでなく、葉の開閉（就眠運動）などでも見られる。就眠運動を行う代表的な植物はまさしく名前の通り、ネムノキで、さらにそのキョクタン^①なものは同じマメ科のオジギソウに見られる。これは「概日リズム」あるいは「概日時計」、英語では「サーカディアンリズム」のひとつとされている。

サーカディアンリズムとは、一日、すなわち二四時間の周期で行われる、植物ばかりでなく動物も含めた生物が示す現象である。二四時間の周期である地球の環境^②に対する生物のひとつの適応現象ともいわれており、地球上で生活するうえでの時計として利用されていることから、「生物時計」あるいは「体内時計」などと呼ばれている。このリズムは植物によってほぼ決まっていて、マツヨイグサの仲間のオオマツヨイグサでは、自然条件下での花の開閉周期は、かなり正確に二四時間である。つまり、前日の日没から二四時間後、すなわち次の日の日没に必ず開花する。

また、アサガオの場合は、暗くなつてから八時間後に開花する。だからこの習性を利用すれば、花芽のついたアサガオを真昼に光が届かない暗闇に八時間以上置き続けると、朝に開花するべきアサガオを、夜でもいつでも開花させることができる。

これらの植物が持つ開花習性もまた、花が地球上に出現して約一億三〇〇〇万年の月日を重ねて獲得した植物の生理的習性であり、それはとりもなおさず、受粉、特に動物による受粉と密接に関連した形質であることはいままでもない。たとえば、昼間に行動する動物が花粉媒介者であれば昼咲きが有利であるし、逆に夜行性の動物がそれであれば夜咲きのほうが有利に違いない。もしくはその逆で、

(岩科司^{いわたしなつかさ})

『花はふしぎ なぜ自然界に青いバラは存在しないのか?』より)

(作問の都合上、一部表記を変え、本文中の図を削除しました。)

(注1) 栄養繁殖——タネでの繁殖に対して、挿し木、接ぎ木、取り木、株分け、組織培養などで繁殖する方法をいう。

〔問14〕 キソ^a、シヒヨウ^b、キョクタン^cの傍線部に該当する漢字を含む熟語の組み合わせとして正しいものは、次のうちのどれか。

- ① a 建物のテイソ式を行う。 b 道路ヒヨウシキを設置する。 c ゴウタンな人柄で知られる。
- ② a かつての友人とソエンになる。 b ヒヨウハク剤を入れる。 c 話す内容をタンテキにまとめる。
- ③ a 古典文学のソヨウがある。 b ハクヒヨウを踏む思いだ。 c 準備バンタンで臨む。
- ④ a 市民運動のソセキを築く。 b 新製品のシヨウヒヨウ登録。 c 事件のホツタンを話す。
- ⑤ a 作曲家になるソシツがある。 b ヒヨウコウ百メートルの山。 c 精神をタンレンする。

〔問15〕 空欄A、B、Cに当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① A しかし B むしろ C ところで
- ② A しかし B むしろ C たとえば
- ③ A しかし B もちろん C たとえば
- ④ A さらに B もちろん C ところで
- ⑤ A さらに B むしろ C たとえば

〔問 16〕 まさしく名前の通り、ネムノキとあるが、この表現意図の説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。¹⁾

- ① 「ネムノキ」は、概日リズムによる開花の生態を「眠ること」に見立てて名付けられた植物である。
- ② 「ネムノキ」は、光合成を行うために、常に葉を閉じ眠って見えることから名付けられた植物である。
- ③ 「ネムノキ」は、概日リズムによる葉の就眠運動を「眠ること」に見立てて名付けられた植物である。
- ④ 「ネムノキ」は、身を守るため花の匂いによって人に眠気を催させることから名付けられた植物である。
- ⑤ 「ネムノキ」は、古くから薬として催眠効果のある成分が利用されてきたことから名付けられた植物である。

〔問 17〕 環境とあるが、この言葉と同じ構成の熟語として最も適切なものは、次のうちのどれか。²⁾

- ① 寡少
- ② 経緯
- ③ 表裏
- ④ 骨折
- ⑤ 適温

〔問 18〕 とりもなおさずとあるが、この言葉の意味として最も適切なものは、次のうちのどれか。³⁾

- ① そのまま
- ② あるいは
- ③ ところで
- ④ わざわざ
- ⑤ なぜなら

〔問 19〕 空欄 X に当てはまる文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 夜咲きか昼咲きかは、長い年月をかけて植物そのものが決めたのかもしれない
- ② 夜咲きの花が出現したことで、夜行性の花粉媒介動物が出現したのかもしれない
- ③ 動物によっては、昼間に行動するか、夜行性となるかは関係がないのかもしれない
- ④ 植物によっては、夜咲きの方が生き残るのに有利となる環境が出現したのかもしれない
- ⑤ 夜咲きか昼咲きかは、植物が生育している地域の動物の行動時間で決まるのかもしれない

〔問 20〕 この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① リンネはゲツカビジンの開花特性を利用し、生物時計を作成した。
- ② 植物のもつ開花習性を利用して、開花時刻を操作することができる。
- ③ 植物は、繁殖がより有利になるように動物をコントロールしている。
- ④ 日本のゲツカビジンは開花時期を合わせるために栄養繁殖されている。
- ⑤ 植物の開花習性には、光の強さだけでなく温度や地質が関係している。

余
白

